「若旅★授業」鈴鹿大学（2017.10.17） 実施報告

近畿運輸局第8回目の「若旅★授業」を、平成29年10月17日（火）に鈴鹿大学の国際人間科学部の一年生約100名の生徒さんを対象に実施しました。講師として、一般財団法人京都ユースホステル協会の佐藤隆芳さんをお招きし、『旅の魅力と学びについて　～世界のユースホステルから地域のオモシロまち歩きツアーまで～』をテーマに実施しました。

佐藤さんは10代後半にグラフィックデザインを学び、デザイン事務所に勤務し広告デザインの世界で活躍されてました。旅行に出ることがほとんどなかった佐藤さんですが、ワーキングホリデーでオーストラリアにいる友人に誘われ、初の海外一人旅を体験されました。それがきっかけとなり、旅の素晴らしさに目覚められ、その後、約2年間国内外を放浪する旅に出られました。そういった体験をもとに、人との出会い、旅の素晴らしさについて、講義していただきました。

現在、佐藤さんは京都ユースホステル協会の事業部長として、外国の人々の交流事業や旅行事業などを運営する傍ら、「京都の住民がガイドする京都のミニツアー『まいまい京都』」の活動にも取り組んでいることに触れられました。このツアーは5年前にスタートし、「まいまい」とは「うろうろする」という意味の京ことばであり、地元住民が愛を込めて自慢する、個性的かつバラエティーに富んだ100人を越えるガイドがいることを紹介していただきました。最初は31コースだったものが、現在600コース以上の規模になっていること、また、このツアーには共通の趣味や好きなモノを通じて参加される方が多いこともあり、独自のコミュニティーを作ったり、参加者同士の結婚にもつながったことも話されました。また、一人で267回も参加された猛者もおられることも話していただきました。

佐藤さん自身、ワーキングホリデーに行くまでは、メジャーな旅雑誌などに紹介されるようなものが旅行であるといったイメージを持っており、海外に行く必要を感じない、日本で生きていけばよいという人間であったと話されました。海外に一人で行くことができたという達成感から、広い世界に興味を持ち始め、いろんなものを見たいという思いが湧き上がり、ついには会社を辞し、世界放浪の旅に出ることになったと話されました。

“旅”を通じて、「何を見る」ではなく「どんな人に会えるか」という楽しさに気づき、自分の思いを伝える、通じなくてもへこたれない、「なんとかなる」という度胸が身についたと話されました。また、外に出たからこそ、日本のことを知らない自分に気づいたこと、多くの人に助けられることも多く、今度は自分が助けてあげたいという思いが湧いてきたと語られ、人と出会える「ワクワク感」を持てる機会や場を作りたいという思いが、今の仕事や活動に結びついたということも聞かせていただきました。

最後に、ユースホステルの設立の経緯や歴史にも触れられ、「単なる『宿泊施設』の運営ではなく『宿泊機能のある教育施設』の運営を行うこと」「教育的な効果がある“旅”の活動をサポートすること」であるとの理念も説明されました。また、客船、お城や元刑務所、さらにはジャンボジェット機を活用したユニークかつ豪華なユースホステルも世界に多くあることを豊富な美しい写真で紹介いただきました。

佐藤さんの実体験に基づく熱い思いは、しっかりと学生の皆さんに伝わりました。最後に、『“旅”には学びや気づきがある。ぜひ、学びある“旅”に出てください』という素晴らしいメッセージと共に授業を終えました。終了後も、佐藤さんのもとに質問などで多くの学生が集まり、大変盛り上がりました。

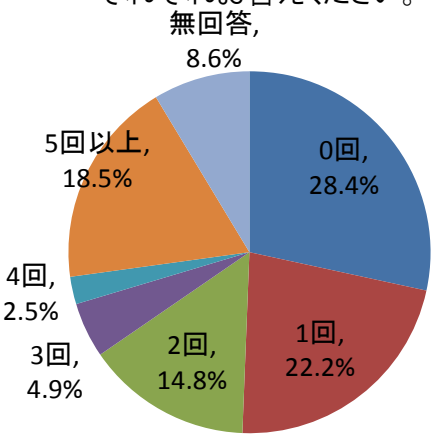
また、当日は、中日新聞と地元のCSテレビの取材もあり、記事やテレビ放映につながりました。

# 若旅★授業（鈴鹿大学　2017.10.17）アンケート結果概要

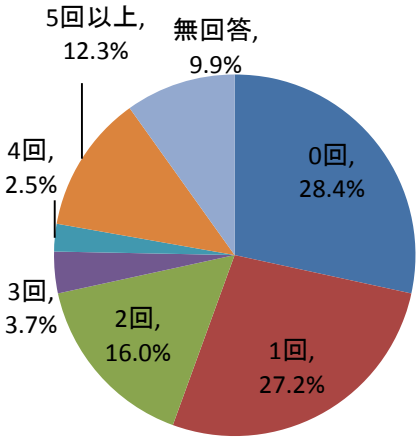
**〇事前アンケート**

【授業を受けた生徒さんのアンケート結果】（n＝81）

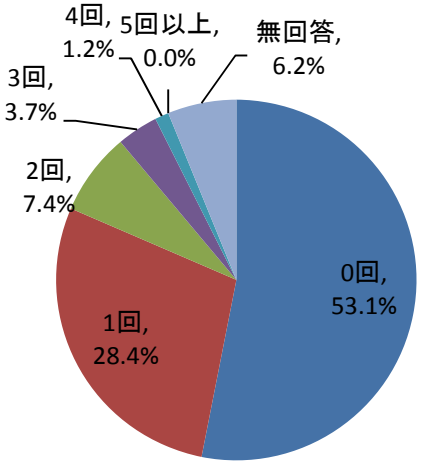
（1）　あなたは年に何回程度、国内旅行（日帰り・宿泊）および海外旅行をしますか。
それぞれお答えください。




国内日帰り旅行



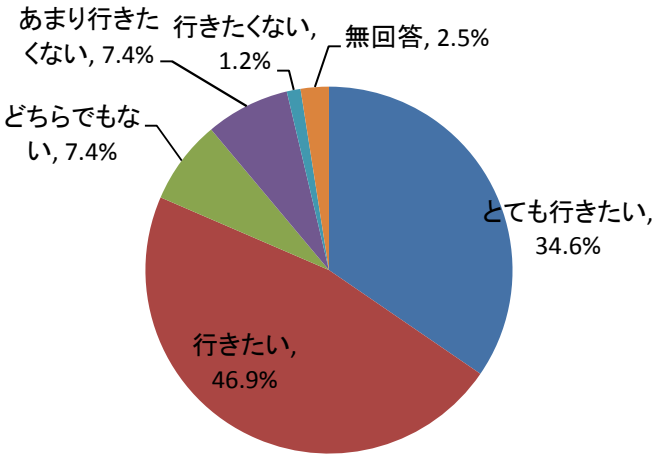

国内宿泊旅行




海外旅行

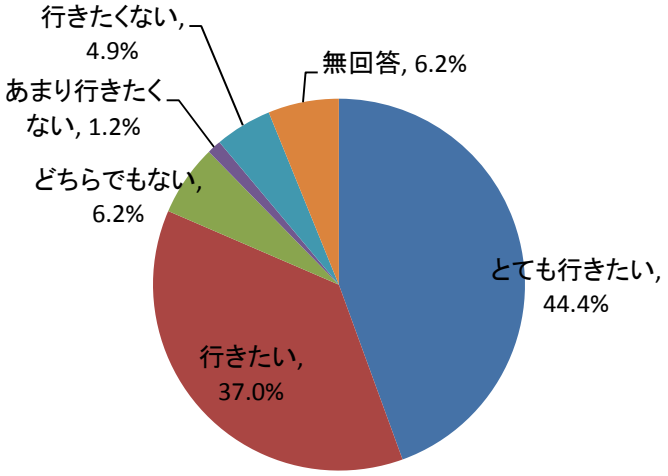
（2）**国内旅行**に対する意欲を教えて下さい。

「とても行きたい」「行きたい」の回答を合わせると81．5%という数字になりました。
「あまり行きたくない」と「行きたい」という回答は8．6%でした。




（3）**海外旅行**に対する意欲を教えて下さい。

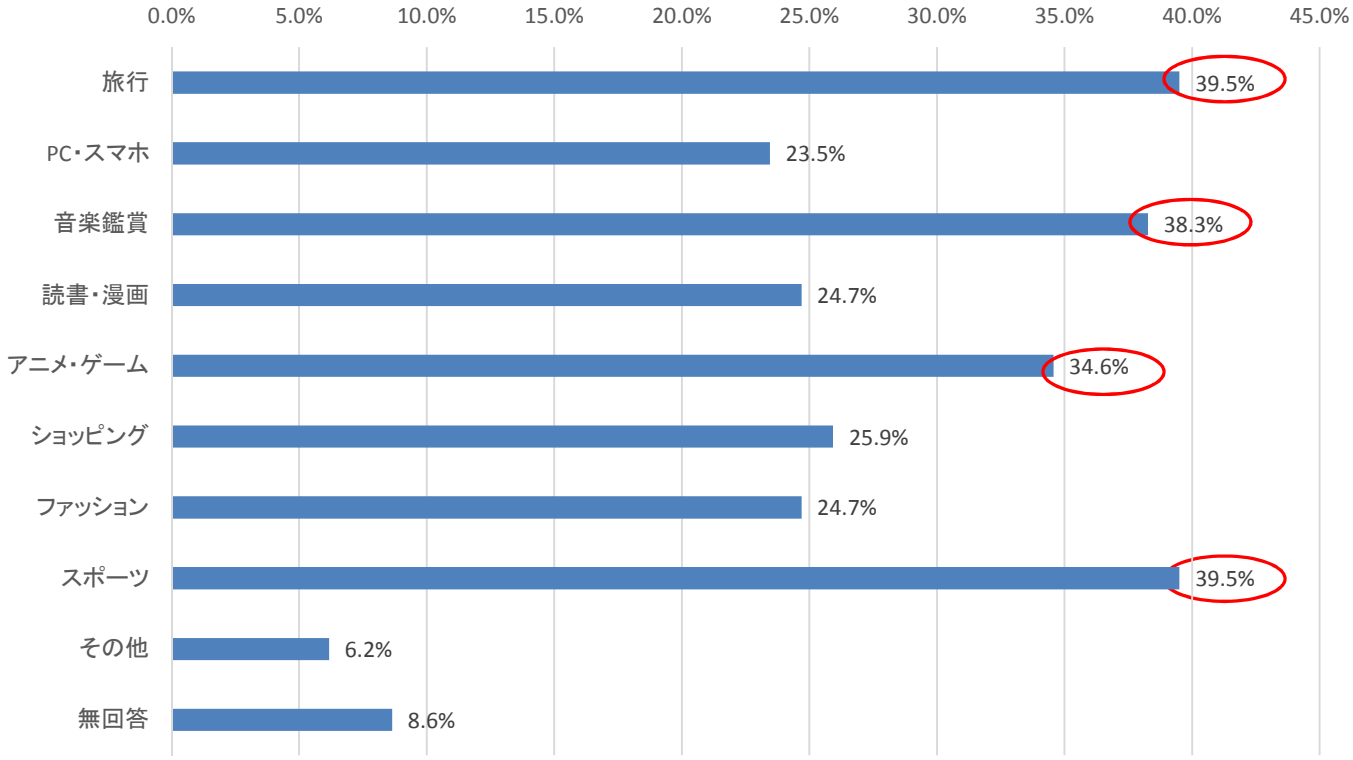
海外旅行については、81．4%が行きたいと回答してくれました。（「とても行きたい」が744．4%、「行きたい」が37%）
「あまり行きたくない」と「行きたい」という回答は6．1%でした。
国内旅行に比べて、10%の学生さんがより海外旅行に意欲があるようです。



（4） 行ってみたい旅行先や旅のスタイルを教えて下さい。

行ってみたい旅行先については、国内では北海道が6名、沖縄、大阪、東京といったところが1～2名で、広範囲に興味を持っていることがわかりました。
海外では、アメリカ（ハワイ・グアム含む）が23名で断然に多く、ついで、フランスが8名、イタリア・イギリスなどヨーロッパも広く人気があるようです。アジア圏では、韓国が7名でトップ、台湾、フィリピン、インドが挙がっていました。
また、旅のスタイルでは、一人旅（14名）、次いで家族旅（10名）の順でした。日帰りはほとんどなく、宿泊（1泊2日、1週間、1ヶ月、長期　など）という回答が多かったです。

（5） あなたの趣味を教えて下さい。【複数回答可】

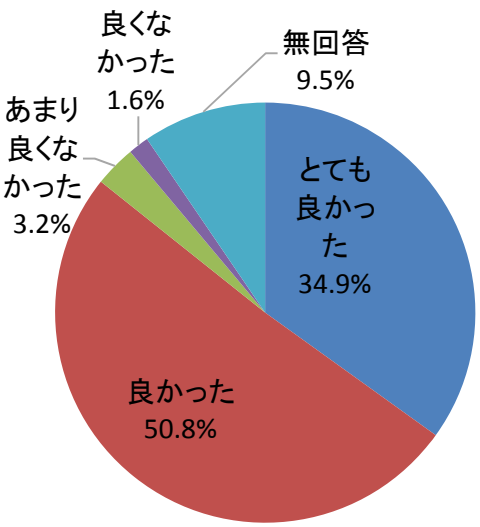



「旅行」が39．5%とトップではありますが、スポーツも同じく39．5%、音楽鑑賞とアニメ・ゲームも30%以上といろんなものに広く興味がある生徒さんが多いようです。他の趣味（PC・読書ショッピング・ファッション）においても20%台となっており、平均的に多くのものに興味があるように思います。
スポーツが1位というのは他校では余り例がない珍しい数字です。

**〇事後アンケート**
【授業を受けた生徒さんのアンケート結果】(n＝63)

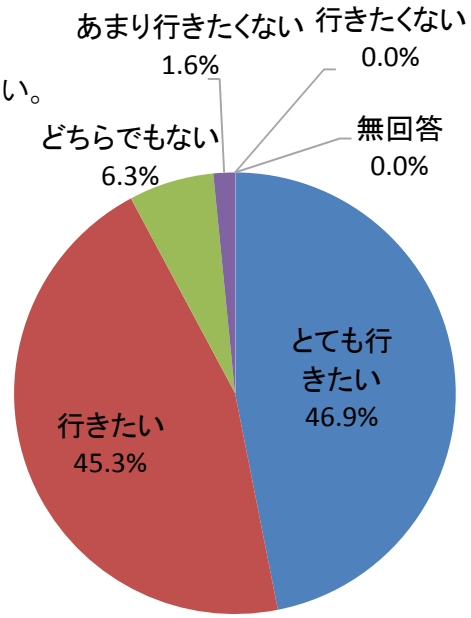
（1） 今回の講演はいかがでしたか

「とても良かった」「良かった」と回答してくれた生徒さんは85．7%と大変高い数字でした。「あまり良くなかった」「良くなかった」の合計は、わずか4．8%という低い数字でした。



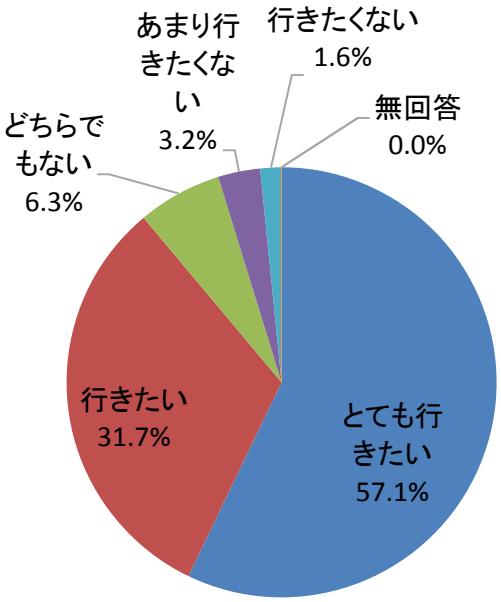

（2） 講演を聞いた後の、**国内旅行**に対する意欲を教えて下さい。

今回の「若旅★授業」を受けて、92．2%の生徒さんが「とても行きたい」「行きたい」と答えてくれ、授業前より10ポイント以上も増えました。
また、「あまり行きたくない」「行きたくない」の合計が6．3%で、授業前の8．6%から2ポイント以上減りました。




（3） 講演を聞いた後の、**海外旅行**に対する意欲を教えて下さい。

今回の「若旅★授業」を受けて、88．8%の生徒さんが「とても行きたい」「行きたい」と答えてくれました。これは、授業前の81．4%から7ポイント増えています。
また、「あまり行きたくない」「行きたくない」の合計が4．8%で、授業前の6．1%から1．3ポイント減りました。
授業後は、国内旅行も海外旅行も行きたいという気持ちに変わったという結果になりました。



（4） 講演で特に印象的だったことを教えてください。

- 海外に行っても自分の気持ちを相手にしっかり伝えることが大切ということ。
- 印象的なことは、旅を通じて今まで知らなかった世界と触れ合うということ。
- 京都のユースホステルについて色々なことを知り、興味を持った。
- 京都の住民がガイドする「まいまい京都」というミニツアーにたくさんのコースがあり参加したい。
- 「旅」は「何を見る」ではなく、「どんな人に会える」かということ。
- 知らなかったワーキングホリデーについて知り、自分も行きたいと思いました。

（5） 講演でこんなことをもっと聞きたかった、こんなことをしてみたかったということがあれば教えてください。

- 京都のどこが一番人気があるのか。
- 貴方の最も記憶に残る旅行はどれですか。
- もう少しオーストラリアや違う国でしたことを知りたかった。

（6）どのような取組を行ったら、若者が旅行に出ると思いますか。

- インスタ映えするものがあればいいと思う。
  （〔SNS〕が生活の一部となっているので、インスタ映えするようなものがあれば若者は増える。）
- 旅だけじゃなく、イベントを作ればいいと思う。
  （特典をつけた方が旅に出ると思うから。）
- 若者向けのツアーなどを組む。（若者に人気があるものを組めば若者が多く集まるので。）
- 機会がないので、行くきっかけを作るサービスを考える。
  （きっかけが無いと行く勇気がなかったり、また、今やらなくてももっと年齢を重ねてからでいいと思ってしまうかもしれないから。）